

国際ホテル旅館

INTERNATIONAL HOTEL MANAGEMENT

2021.12/5 第508号

発行所:国際ホテル旅館 〒104-0061東京都中央区銀座8-15-15(株)プライダル産業新聞社内

発行人:米谷美咲 年間購読料11,000円(消費税込)

TEL 03(6226)9580 FAX 03(6226)9578

<https://ihr-news.jp>

スマート観光DX クライシス

【第8回】「for インバウンド」①

株式会社タップ ホスピタリティサービス工学研究所 執行役 藤原猛



■著者プロフィール

「変なホテル ハウステンポス」開業準備室長・初代総支配人として、IT やロボティクスによるホテルマネジメントを、一から企画・構築した。

2019年に湾つくしを設立。全国のホテルや旅館、観光施設などで、経営・業務管理のIT化・IoT化、経営改善をサポートする。2020年1月より現職。

新型コロナウイルスのパンデミックが世界経済に打撃を与え、まもなく2年が経過しようとしています。

観光産業は、渡航制限等によるインバウンド需要の蒸発に加えて、緊急事態宣言等の発出や移動自粛要請の影響を受けて国内旅行も制限が厳しくなっていました。

国内ではワクチン接種が進んで新規感染者数も減少し、旅行需要にも回復の動きがみられます。徐々にではあります。これからはインバウンド受け入れ再開に向けた準備にも取り

掛かるべきだと感じています。そこで、備えの一つとして厚生労働省が呼び掛けている「インバウンド増加に伴う衛生害虫問題と対策」について考えたいと思います。

衛生害虫とは人や家畜に健康被害を起こさせる虫のことで、宿泊業にとってお馴染みのものは「トコジラミ」です。外国人旅行者の手荷物に紛れるなどしてホテルや旅館に侵入し、仮に客室に入り込んだ場合は、当該客室の両隣の部

屋も消毒対象にするよう指導されます。

トコジラミ対策は、昨今の状況にかかわらず宿泊施設の衛生管理を管轄する各地の保健所から厳しく指導されますが、様々な理由から被害報告への対応が正確になされていないようです。国内ではいったん激減したのですが、海外から来た人が日本に持ち込み、都市部の高密度施設・大量保持者から再び拡散しているとみられます。もちろん、訪日

に関するエリアのマネジメントも必要となるわけです。

加えて宿泊客の行動分析を踏まえると、化粧室やパブリック空間などでの対策も必要となるでしょう。運営者の負担も大きくなりますが、必要な業務であるのは間違いないと思います。

害虫対策となると、施設全体の駆除作業に加えて、ケースによっては発生した原因の報告を求められることもあります。この原因分析に役立つ

のが、人流データの活用かと思っています。

新型コロナウイルスの感

衛生管理に見る外国人旅行者への備え コロナ禍で得た知見やノウハウの活用も

染経路を追跡する際にも、濃厚接触者の特定作業が行われました。今回のコロナ禍で、こうした対策に抵抗を感じる人は少なくなったと思います。衛生的な社会を維持するためには必要な施策であるというコンセンサスが、利用者も含めて取られつつある状況の中、宿泊施設の安全性を高めるためにも、IT技術を用いたセキュリティの高度化やデジタル技術による管理に取り組んではいかがでしょうか。

外国人旅行者だけでなく、海外旅行に出掛けた日本人が持ち込むケースもあります。客室に一度寄生すると、ソファの隙間やベッドマットレスの縁や裏、引き出し、コンセントの内部、家具の裏や隙間にまで広がります。もともと繁殖力が強いと言われていますが、ホテルや旅館の場合、客室清掃と強い関連性を持つリネン室を介して拡散する場合もあるようです。つまり、トコジラミ対策の管理は清掃